

選挙はカンパとボランティアで行います。議員は最長3期でローテーション。議員を職業化せず、誰もが議員になることで特権化しません。議員報酬は市民の活動資金として使い、お金の流れは公開します。

後藤ゆう子とかとう涼子の

議会報告



にし  
の  
まち  
から  
レポ

合理的配慮に向けて一歩前進！かとう涼子  
障がい児の介助員制度が見直されます

久しぶりに嬉しい議会報告です。普通学級に通う障がい児をサポートする介助員制度が、2022年4月から改善されることになりました。配置時間の上限が見直され、制度利用の前提とされた「保護者の介助実績」も廃止されます。

なかでも最も重要な点は、「保護者の負担軽減」を目的としてきた制度が、「子どもの権利保障」を目的とする制度へ生まれ変わるということです。障がいがあっても、友だちと同じ学校に通いたい、地域の学校で学ばせたいと考える子どもも、親は少なくありません。今から16年前、西東京市は、障がい児の安全確保と学校生活の安定を図るため、介助員制度を導入しました。しかし当時は、障がい児を普通学級へ進学させるなら、親が責任をもって付き添うのが当然という時代。介助員制度は、そんな親の負担軽減のため、約200日ある年間授業日数の半分に当たる100日間を上限に、親をサポートする制度としてスタートしたのです。

普通学級に通うなら、親の介助が当たり前？

その後、時代は大きく変わり、2016年には、障がい者への合理的配慮を定めた「障害者差別解消法」が施行されました。このことを受け、西東京市の介助員制度も早急に見直すべきと指摘してきました。障がい児の学習権を保障し社会的自立を支えるという視点で、制度のあり方を抜本的に変える必要があると考えたからです。

教育長からは、保護者の介助実績を申請条件から外すこと、支援が必要な子どもには100日

日間を超える配置も可能となるよう検討を進めていることが示されました。また、配置時間を超える介助を、地域のボランティアが無償で担っている実態についても議会でも指摘し、あわせて制度の改善が検討されることとなりました。

制度創設に尽力した方々、制度を利用してきた子どもたちとご家族、介助を担ってきた地域の方々、多くの方が関わり育ててきた介助員制度が、これからも西東京市のインクルーシブ教育に貢献することを願っています。



日間を超える配置も可能となるよう検討を進めていることが示されました。

特定の遺伝子を壊して、品種改良を行う「ゲノム編集」という新技術が開発された「ゲノム編集食品」が次々と承認され流通しています。血圧を下げるギヤバ(GABA)が多く含まれるトマト、早く成長し可食部が増量する真鯛やトラフグのニョースを見聞きされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

遺伝子を破壊します。オフターゲット(標的外の遺伝子を壊すこと)や、長期に摂取した場合の人体への影響、花粉が風に乗り、魚が養殖場から逃げ出したりすることによる生態系への影響等の重大な課題があります。子どもたちにゲノム編集トマトを栽培させる!!

驚いたことに、前述の高ギャバトマトの販売会社が、2022年には介護福祉施設に、そして2023年には小学校へ、苗の無償提供を行う予定だとわか

りました。ゲノム編集植物が自然界に出してしまうことはもとより、子どもたちが遺伝子操作されたトマトを自ら育て、口にしてみても危険性があります。成長期の子どもたちが給食でゲノム食品を口にすることや、血圧を下げる成分を増加させた野菜の栽培が食育としてどうか疑問です。議会では、給食にゲノム編集食品を使用しないことや、苗の無償提供を受けないことを求めました。教育長からは「給食食材は『西東京市学校給食食品購入安全基準』に基づき使用しているが、その中で遺伝子組み換えを制限してい

る。同様に、遺伝子操作を行うゲノム編集食品についても慎重に判断する必要がある」と苗については、食品の安全性を十分に勘案した上に適切に判断する」との答弁がありました。すぐに給食食材にゲノム編集食品が使用されることはないと考えられますが、表示の義務がない以上知らずに購入してしまう可能性は残ります。

安全性審査や、消費者が選択できる表示の義務化を、国に対し粘り強く求めます。

「ゲノム編集食品」を学校給食に使用しないで！後藤ゆう子



市内のセブンイレブン27店舗にペットボトル回収機が設置されました。回収されたペットボトルは、再びペットボトルに再生される「ボトルtoボトル」。限られた資源を有効利用する取り組みが一步前進しました。



回収機にペットボトルを入れる後藤ゆう子

ゆう子と涼子の

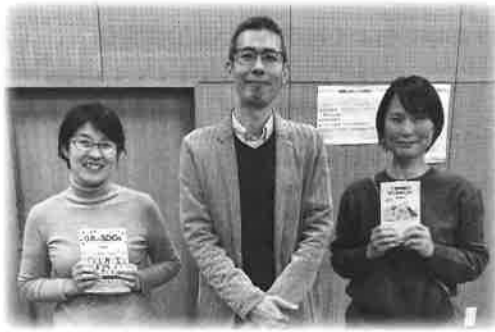
誰ひとり取り残さないSDGsなまちって、どんなまち？

柳沢公民館の学習会「アースデイとSDGsとくらしを考える」に参加しました

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

涼子 今日の講師はノンフィクションライターの高橋真樹さん。地元で話聞けるなんてラッキー♡ ゆう子 私は高橋さんの著書「日本のSDGs」はハッチリ予習済みやで。それにしてもびっくりしたのは、日本の住宅の断熱性能の低さ！ 涼子 ヒートショックで亡くなる人の数は、先進国の中でも日本が断トツに高いんだってね！ ゆう子 冬は窓が結露して、ガス代や電気代がめっちゃかかるのが当たり前やと思ってた。窓枠にアルミを使っているのは先進国では日本だけやなんて知らなかったわ。 涼子 コストが安いかわりに、熱伝導率が高いから夏は暑くて冬は寒い。光熱費もかかるし、エネルギー効率も低いよ。 ゆう子 ドイツではもう、サッシが樹脂でできたトリプルガラスが一般的なんだってね。断熱基準にあわせて規格化が進み、大量生産されるから安くなる。好循環やなあ。

涼子 国や自治体も、住宅の断熱化に補助をつけたいのよね。 涼子 国や自治体も、住宅の断熱化に補助をつけたいのよね。 涼子 国や自治体も、住宅の断熱化に補助をつけたいのよね。 涼子 国や自治体も、住宅の断熱化に補助をつけたいのよね。



▲とても前向きな気持ちになった学習会。高橋真樹さん、ありがとうございました！

ゆう子 けっきょく、「当たり前」をトランスフォーム(転換)しなければ、SDGsとはいへん」のよね。いまやっていることにSDGsのラベルを貼るだけじゃアカン。 涼子 どうすれば人も自然も幸せになれるか？ しわ寄せを誰かに押し付ける経済からの転換だよ。脱原発も脱炭素も、転換には痛みを伴う。でも、社会の課題を解決していくことこそがSDGsだから。 ゆう子 SDGsのもう一つのコンセプトは、「誰ひとり取り残さない」。誰かの犠牲の上に成り立つ社会を変えていく。この二つを両立させてこそ、SDGsなんだよね。

\*ゆう子は滋賀県出身で関西弁です